

2024年8月28日

第174回 技術士包装物流会関西支部研究会議事録

関西支部長 真野仁孝

作成 板垣大介

1.日時

2024年8月22日（木） 18:00～19:30

2.方法

KITENA 新大阪（大阪市東淀川区）及びリモート（Zoom方式）の同時開催

3.参加者

リモート16名、現地10名の計26名

4.支部長より挨拶

酷暑が続く中でゲリラ雷雨などもあり皆様も体調管理や安全に気を付けていただければと思います。昨日は講師として東京でオンデマンドの講義の録画のために出張で東京に行っていたが、教える立場に立つことで改めて自身の勉強の機会となっている。皆様もこのような講師の機会があれば自身の勉強の機会になるので積極的に受けられてはと思います。

5.講演者と演題

講師：米田新二氏（株式会社ネオロジスティクス 取締役、JPLCS 関西支部研究会会員）

演題：「中国における物流事業経験」

6.内容

(1)自己紹介

大学卒業後、ソフトウェア開発の会社に就職し、その後、経営コンサル会社に転職、その後ベンチャー企業に転職したがその会社が倒産した。倒産を経験したことで着実な会社をと考えて現在の物流会社に転職した。現在の業務に過去の3社の経験が生きている。

2012年から中国における物流事業を経験し10年を超えている。コロナ前はビザが不要であったが今はビザが必要となっているが、APECカードを取得することでビザが不要となるため、中国で仕事をするには便利である。

(2)アスト中本社の紹介

動画による会社紹介を実施

動画による一気通貫の海外からの物流サービスについて紹介

(3)モノづくり支援での物流について

物流の領域として調達物流、生産物流、販売物流、静脈物流の4つがあるが今回は調達物流について紹介する。

中国で生産された部品を工場に納める一貫物流のサービスを提供している。例えば、以前はクボタ社が2直体制で生産していたものを日勤体制でできるように、流通加工の一部として組み立て作業も担っている。当社で流通加工をしたものはクボタ社で品質検査を受けるわけではないので品質には非常に気を使っている。工場のタクトタイムの短縮合わせて当社の流通加工の見直しを図る必要があり改善に取り組んでいる。一貫物流サービスのメリットとして、顧客のサプライチェーンの一体として取り組んでいける点がある。

一貫物流のサービスを提供したきっかけは愛知での門前倉庫のコンサル依頼からであり、先方の要望はコンサルではなく一緒になって現場の支援から入ってほしいとのことで1年半ほど従事した。まずは輸送効率の向上の取り組みから始まり、工場内のレイアウトを作成し在庫を削減することでどれくらいスペースが削減できるかなど、様々なことに取り組んだ。

その経験をクボタ社に話したことで、門前倉庫のオペレーションを中国で支援してほしいとの要望があり、2012年から中国での取り組みが始まった。

(4)中国での物流事業

2012年6月にお客様の工場に訪問し、8月に現地法人を設立した。営業活動で提案を続けることで1年後に契約を受注することができた。現地の倉庫は業務の拡大に伴い4回の移転を繰り返し拡大してきたが、新型コロナの影響を受けて大幅に事業が縮小した。現在は、新たな取引先を獲得するために営業活動を強化している。

門前倉庫の立ち上げでは、愛知でのコンサルでは経験しなかったようなことが様々あり非常に苦労した。日本では考えらなかった間違いをなくすために、表示物の作成をすることでミスを防ぐ取り組みを行ってきた。

門前倉庫に加えて、2016年に中国での越境ECの立ち上げ支援を行った。当時は越境ECが注目を集めていたが、まだまだ事例は少なく先進的な取り組みであった。翌年の11月11日の独身の日の売り上げは前年比700倍を達成した。

物流だけでなく商社機能としての免許を取得することで、物流に加えて商社としての購入代行のサービスを提供するようになった。商品売買の差益は物流と比較して収益性は高いがキャッシュフローが悪くリスクも高いため信頼できる取引先のみと行っている。

(5)中国物流の進んでいる点

- ・無人化（通販物流）

圧倒的に市場規模が大きく日本と比較して無人化が進んでいる。

倉庫内の無人化だけでなく配送も無人化が進んでいる。

- ・統制

日本では以心伝心のような感じで伝わるが、中国では伝わらないので良いことと悪いことを明確にして掲示し統制している。

(6)異文化コミュニケーション

○驚いたこと

- ・他の人の仕事を応援しない

他の人のことを応援しない文化があり、入社した際に応援することを当たり前のようにしてきた。

- ・ちょっとしたうそは良いの？

フォルクスワーゲンの不正があった際も、不正に対して許容があることが分かった。

- ・なぜ不良品が発生するの？

入荷時の不良で返品したものがそのまま再入荷されるなど普通にある。

○心がけていること

- ・掲示などして明確な判断基準をつくる

- ・中国の当たり前に染まらないようにする

- ・日本から行くとコストがかかるために現地化が必要となる

7.質疑応答

- ・適正在庫の考え方について日本と中国の違いがあるか

門前倉庫については通常2～3日程度の在庫を持つが、日本の場合は減産がかかった場合に仕入れも連動するが、中国の場合は減産後の増産が難しいためそのまま受け入れる傾向にある。

- ・安全と品質と効率のバランス（日本の場合は3つが均等なバランスが多い）

中国の場合は安全が5割で高い。もし事故などが起こった場合には工場の認可ランクが下がることから安全に対する意識が強い。

- ・5Sの理解について

人材の流動性が高いため、躰まで行く前に辞めてしまうため難しい。整理整頓も育っていた環境での前提条件が異なるため伝えるのも難しい。

- ・ミスの共有

ミスの共有をしても他人事であるため、ペナルティーでミスの多い人は辞めてもらうなどの取り組みを行ってきた。

- ・多能工化に対するインセンティブなどはあるか

人材の流動が激しいため日本のようにたくさんの仕事を覚えるのは難しく、現地では他の人の仕事をカバーできるように2つできるように指導してきた。

- ・直雇用ではない理由について

仕事の年間波動が大きいため、直雇用での固定化が難しい。

けがなどの労災が発生した際には日本企業ベースになると金額が大きくなる。

以上

【次回 第175回関西支部研究会】

日時：10月17日（木）18:00～19:30、開催方法：KITENA 新大阪・Zoomによる同時開催

発表者：佐伯光哉 氏<兵庫県立工業技術センター、当会関西支部研究会会員>

発表テーマ：「プラスチック表面加工について～質感表現、触感評価方法」